

PEP TALK!



通信 Vol.24

【怒る指導から卒業しましょう！】

「怒る指導＝簡単でラク」

先日、バレーボール元全日本代表選手の益子直美さんがこのようにツイートされていました。確かにその通りだと思うのです。

選手が指示したプレーをしない（できない）。こんな時、つい「なんでやらないんだ！馬鹿野郎！」と叫んでしまう・・・。

同じように子どもが言うことをきかない。部下が思った通りのことをしてくれない。するとつい声を荒げてしまう。私にも身に覚えがあるので良くわかります。言うことをきかない自分の子どもに対して「何で言われた通りにしないんだ！」と大きな声で怒鳴っていたのです。

「どうしてほしいのか、感情で伝えるのではなく言葉で伝えてほしい！」

益子さんはこのようにもつぶやかれていました。

こちらもしっかりその通りです。

「怒る」事を相手に対する指導だとする人は「怒り」という感情を利用してとにかく相手を従わせようとしめます。これが手っ取り早く簡単だから。そしてその場だけでみると効果絶大だから。しかし、あなたが仕事や家庭内で何かミスをしてしまった。そんな場面でも上司や家族から

「なんでこのくらいの事できないんだ！」「あなたって、ほんとうにダメね！」こんな風に言われたらどうでしょう？その場では謝ったりいうことを聞くかもしれませんが、あなたの心の中に芽生えるのはどんな感情でしょうか？相手に対する怒りや憎しみ、また自分に対しては自分を責めて「私（俺）ってダメだな・・・」このようなマイナスな感情が生まれるのではないのでしょうか？

「このような事を乗り越えるから強くなるんだ！」という意見もあるかと思いますが。確かにそういう部分もあるかもしれませんが。それが通用した時代もありました。しかし今の時代は通用しません。事実、厳しい叱責による自殺や鬱など精神に障害を負ってしまう事例が沢山あります。ではどのようにすれば良いのか？益子さんがおっしゃるように「言葉による指導」をすることです。それには指導する側が勉強をしなくてははいけません。また、一度勉強したからといってすぐに身につくものではないのでトレーニングが必要です。

あなたが指導される立場だったら怒ってばかりの指導者と常に学び、わかりやすくやる気にさせてくれる指導者とどちらがいいですか？

「選手が本気で技や体力を磨くように指導者は言葉の力を磨く」

ペップトークの基本的な考え方である「感情でなく言葉で伝える」を学び、トレーニングすることを初めてみてはいかがでしょうか。